

日本史籍講読3－Ⅲ

科目ナンバリング JPH-405

選択必修 2単位

深谷 幸治

1. 授業の概要(ねらい)

この日本史籍講読3C・Iの授業は、担当教員の専門とする時代である中世から近世前期の史料つまり書状・記録・日記等を主体として、その前後の時代のそれらをも含め、活字版をテキストとして使用し、その内容を深く読み込んでいくものである。つまりそれらの史料を原文で読み、現代語に訳し、用語を調べ、成立の時代背景や筆者について調べていく。その作業と報告を、受講学生に担当してもらうことになるので、演習に準ずる方式で授業を進めていくことになる。最初の数時間程度を使い、古文・漢文の重要部分に関する復習を講義的授業で実施する。加えて中世古文書解説に関わる説明的授業も何度か実施する。

受講学生は何人かでグループを形成し、担当する史料等を決定した上で、その現代語訳、用語の調査および時代背景・筆者についても調べてもらい、それらをプリント(レジュメ)にして配布し、報告してもらう。各グループは前期に2回程度は報告が当たるので、そのことを認識しておくこと。

2. 授業の到達目標

過去の人々が残した記録・日記・書状等を読んで、その意味するところと時代の様相について調べ、考えることにより、資料の内容解説と背後にある状況を知り、史学科学生としての知識・知見を増加させる。同時にグループでの調査活動・報告を経験していくことで、学生自身のプレゼンテーション能力を向上させ、卒業論文等の作成に必要な手順・方式・態勢を会得し、さらに将来的な仕事上の収集・分析・記述・報告能力の獲得をも図る。

3. 成績評価の方法および基準

出席は成績評価の前提となる必要条件である。それを満たした上で、時間毎の報告の内容・様子や、前期最後の授業時間に実施する試験の解答内容を勘案して、成績を評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

特定のテキストは使用しない。必要な史料は毎時間担当教員がプリントで用意し、配布する。

5. 準備学修の内容

中世の史料をメインに扱うが、当然それらの史料は古文・漢文もしくはその複合体文章で書かれている。また使われている字体は、高校までの課程で学修してきた当用自体とは異なり、正字体(旧字体)である。受講学生はそれらを解説する能力が必要となるので、古文書学の授業を併せて受講したり、また高校までで学んだ古文・漢文などの教科書を再利用して復習するなどしておくこと。

6. その他履修上の注意事項

受講学生は積極的に調査・報告を行い、それらに対するディスカッションに参加することが期待される。

また以下の授業内容はあくまで予定であり、状況によっては変更されることもあるので、承知しておいてもらいたい。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス。授業の進め方、報告の様式・注意事項などについての説明。またグループ分けを行う。さらに最初のこの時間から、古文・漢文の基本的な部分の復習を授業形式で行っていく。
- 【第2回】 前回到続き古文・漢文の基本的部分の復習、講義的授業。
- 【第3回】 中世古文書の読みと解釈方法に関する講義的授業。
- 【第4回】 受講学生によるグループ報告、1回目。まずは古代の史料。
- 【第5回】 グループ報告、2回目。古代史料続き。
- 【第6回】 グループ報告、3回目。古代史料。
- 【第7回】 グループ報告、4回目。古代史料。
- 【第8回】 グループ報告、5回目。中世前期の史料。
- 【第9回】 グループ報告、6回目。中世前期史料続き。
- 【第10回】 グループ報告、7回目。中世前期史料。
- 【第11回】 グループ報告、8回目。中世前期史料。
- 【第12回】 グループ報告、9回目。中世前期史料。
- 【第13回】 グループ報告、10回目。中世前期史料。
- 【第14回】 中世古文書の読みと解釈に関する講義的授業。
- 【第15回】 全体のまとめと試験。